

「信仰者のリスト(1)」

ヘブル11:1~6

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①御子は、天使に勝るお方である(1:4~2:18)。
- ②御子は、モーセに勝るお方である(3:1~6)。
- ③御子は、アロンに勝るお方である(4:14~10:18)。
- ④学んだことの適用(10:19~13:25)。

(2) 前回は、10:39で終わった。今回は、その続きである。

Heb 10:39 私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

- ①すでに背教は、ある人々の間で起こっている。
- ②この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ③今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ④信仰による忍耐を発揮した旧約聖書の信仰の英雄たちがリストアップされる。
  - \*彼らは、霊的洞察力を持っていた(抜群の霊的視力)。
  - \*彼らは、信仰を捨てないで、激しい迫害と辱めに耐えた。
- ⑤この手紙の読者たちもまた、彼らのように生きることができる。

2. アウトライン

- (1) 信仰の定義(1~3節)
- (2) アベル(4節)
- (3) エノク(5~6節)

結論:

- (1) 信仰とは世界観である。
- (2) 罪人は、恵みよりも律法を好む。

信仰の定義について学ぶ。

I. 信仰の定義(1~3節)

1. 1節

Heb 11:1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

(1) これは信仰の定義である。

「信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです」

(新改訳)

「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」(新共同訳)

「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである」(口語訳)

「それ信仰は望むところを確信し、見ぬ物を眞實(まこと)とするなり」(文語訳)

「信仰を、どう定義したらよいでしょう。それは、願い事が必ずかなえられるという、不動の確信です。また、何が起こるか分からない行く手にも、望みどおりのことが必ず待ち受けていると信じて、疑わないことです」(リビングバイブル)

(2) また、信仰が私たちに与えてくれる力を描写したものである。

①望んでいる事がらを、すでに得たかのように現実のものとしてくれる。

②まだ見ていないものが、確実に与えられるという保証を与えてくれる。

\* 「まだ見ていないもの」とは、神の報いと祝福である。

(3) 信仰の本質は、聖書を通してご自分を啓示された神への信頼である。

①神のご性質は信頼できる。

②それゆえ、神が約束されたことは必ず成就する。

③聖書の神は、契約の神である。

④信仰とは、根拠なく信じること(狂信)ではない。

⑤聖書的信仰は、神の啓示がなければ成立しない。

⑥信仰とは、神の自己啓示への健全な応答である。

(4) 人生における試練は、私たちの信仰を訓練するためのものである。

1Pe 1:7 あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されつつなお朽ちて行く金よりも尊く、イエス・キリストの現れのとくに称賛と光栄と栄誉になることがわかります。

## 2. 2節

Heb 11:2 昔の人々はこの信仰によって称賛されました。

(1) 訳文の比較

「昔の人々はこの信仰によって称賛されました」(新改訳)

「昔の人たちは、この信仰のゆえに神に認められました」(新共同訳)

「古への人は之によりて證(あかし)せられたり」(文語訳)

「神様を信じた昔の人たちは、この信仰で名高いのです」(リビングバイブル)

①「證(あかし)せられたり」(文語訳)は、終わりの日に義とされるという保証を得たということである。

(2) 旧約時代の信仰者たちは、信仰による忍耐のゆえに神に認められた。

①ヘブ11章は、手本となる信仰者のリストを提供している。

②これは、ユダヤ人の歴史の要約でもある。

\*「historical retrospective」(歴史的回顧)という文学手法である。

\*使7:1~60で、ステパノはサンヘドリンに立って同じことをしている。

③ヘブ11章では、「信仰によって」という言葉で新しい項目が始まる。

### 3. 3節

**Heb 11:3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。**

(1)「信仰によって」という言葉が登場する。

①信仰とは、世界観である。

②神は、物質が存在する前からおられる。

③神はことばによって無から有を創造された。

④この世界がどのように創造されたかは、人間には分からない。

⑤神がそれを啓示されたので、人間はそれを事実として受け止める。

⑥それが信仰である。

## II. アベル(4節)

### 1. 4節

**Heb 11:4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。**

(1)「信仰によって」

①ヘブ11章では、アダムとエバは無視されている。

\*エバは、神の言葉よりもサタンの言葉を信じた。

\*とは言え、彼らが滅びたということではない。

\*彼らはその後、信仰によって救われた。

\*彼らには、皮の衣が与えられた。

②ヘブ11章で最初に登場する信仰の偉人は、アベルである。

\*彼は、人類史上最初の殉教者である。

(2) カインの職業とアベルの職業

- ①カインは、父アダムの職業に倣い農夫となっていた。
- ②アベルは、羊を飼う者となった。ミルク、衣服、犠牲の動物などを得ていた。

(3) カインのささげ物

- ①「ある時期になって」→「ある期間(時期)の終わりに」
- ②この時点で、すでに定期的なささげ物の時期が決まっていた。
- ③これは、初めてのささげ物ではない。
- ④彼らは、神に近づくためには血の犠牲が必要であるとの啓示を得ていた。
  - \*アダムから教えられた可能性もある。
- ⑤この時までには、カインはアベルから羊かヤギを買ってささげていたはずである。
- ⑥ここは、カインが血のないささげ物をささげる最初のケースである。
- ⑦彼は、地の作物から主へのささげ物を持ってきた。
  - \*これは、血がないので神に受け入れられない。
  - \*モーセの律法でも、穀物のささげ物は、血がともなわなければ受け入れられない。
- ⑧カインの行為は、信仰によらない「宗教的行為」である。
  - \*単なる義務感からの行為である。
  - \*それは最高のもので、初穂でもない。

(4) アベルのささげ物

- ①初子の羊(血のささげ物)、最良のもの
- ②これは、信仰による行為である。
- ③両者の違いは、それが血のささげ物かどうかの違いである。
- ④アベルのささげ物は受け入れられ、カインのささげ物は拒否された。

(5) アベルは死んだが、彼の信仰は今も多くの人たちに語り続けている。

- ①語っている内容は、血の犠牲によって神の前に義とされるといふ真理である。

### Ⅲ. エノク(5~6節)

#### 1. 5節

Heb 11:5 信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。

(1) 創5:21~24

Gen 5:21 エノクは六十五年生きて、メトシェラを生んだ。

Gen 5:22 エノクはメトシェラを生んで後、三百年、神とともに歩んだ。そして、息子、娘たちを生んだ。

Gen 5:23 エノクの一生は三百六十五年であった。

Gen 5:24 エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。

(2) ある時点で彼は、死を経ないで天に上げられるという啓示を受けたと思われる。

- ①それまでは、すべての人が死を経験していた。
- ②彼にとっては、神の啓示を信じるのが最も自然で理性的なことであった。
- ③彼は神のこぼを信じたので、神の約束通りに生きてままた天に移された。

(3) 神は、私たちが神を信じることを喜ばれる。

2. 6節

Heb 11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。

(1) いかなる人間の業も、信仰の欠如を補うことはできない。

- ①神を信じないことは、神を偽り者とするのと同じである。

1Jn 5:10 神の御子を信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないからです。

(2) 信仰の2つの内容

- ①神がおられる。
  - \*抽象的な神ではなく、聖書に啓示された神である。
- ②神は、ご自身を信じる者に報いてくださる。

結論:

1. 信仰とは世界観である。

Heb 11:3 信仰によって、私たちは、この世界が神のこぼで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。

(1) 「信仰によって」という言葉が登場する。

- ①神がこの世界を無から創造されたかどうかを確認できる人はいない。
- ②神は、ご自身がこの世界の創造者であると啓示された。

③神がそのように啓示されたので、人間はそれを事実として受け止める。

④それが信仰である。

(2) 靈的事項においては、信じるのが、見ることに先行する。

①この世の人たちは、「Seeing is believing.」という。

②神は、「Believing is seeing.」という。

Joh 11:40 イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」

(3) 私たちは、この世界が神のことばで造られたことを信仰によって悟る。

①創世1~2章の啓示に対して信仰による応答をした結果、その悟りに至る。

②このことを認めないなら、それ以降の神の業を信じることはできない。

(4) 聖書的世界観によってこの世を観察する人の特徴

①この世では、神の許しなしには何一つ起こらない。

②神のことばには、力がある。

2. 罪人は、恵みよりも律法を好む。

(1) 神のことばを信じないのは、人間の心に「恵みよりも律法を好む」という性質があるからである。

(2) その例が、カインがアベルを殺した出来事である。

①アベルの信仰の内容

\*人が義とされるのは、すぐれたいけにえの血による。

\*アベルは、その信仰をもっていけにえを捧げた。

②カインは、その信仰を受け入れることができなかった。

\*律法は、恵みを憎悪する。

\*それが、カインがアベルを殺した理由である。

\*業による救いを求めることは、神の恵みを拒否することである。

(3) 信仰とは、神の愛と恵みの中に自らを委ねることである。

「信仰者のリスト(2)」

ヘブル11:7~16

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①学んだことの適用(10:19~13:25)
- ②すでに背教は、ある人々の間で起こっている。
- ③この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ④今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ⑤信仰による忍耐を発揮した旧約聖書の信仰の英雄たちがリストアップされる。
  - \*彼らは、靈的洞察力を持っていた(抜群の靈的視力)。
  - \*彼らは、信仰を捨てないで、激しい迫害と辱めに耐えた。
- ⑥著者は、読者には旧約聖書の知識があることを前提に書いている。

(2) 前回のアウトライン

- ①信仰の定義(1~3節)
- ②アベル(4節)
- ③エノク(5~6節)

(3) 今回のアウトライン

- ①ノア(7節)
- ②アブラハム(8~10節)
- ③サラ(11~12節)
- ④族長たち(13~16節)

結論:

- (1) ノアの信仰から学ぶ
- (2) アブラハムの信仰から学ぶ
- (3) サラの信仰から学ぶ
- (4) 族長たちの信仰から学ぶ

ノア、アブラハム、サラ、族長たちの信仰から学ぶ。

I. ノア(7節)

1. 7節

Heb 11:7 信仰によって、ノアは、まだ見ていない事がらについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。

(1) ノアは、神から警告を受けた。

①創6:17

Gen 6:17 わたしは今、いのちの息あるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすために、地上の大水、大洪水を起こそうとしている。地上のすべてのものは死に絶えなければならない。

(2) それは、まだ見ていない事がらについての警告であった。

①地上の生物は、大洪水によって滅ぼされる。

②ノアは、雨さえも見たことがなかった。

③創2:5~6

Gen 2:5 地には、まだ一本の野の灌木もなく、まだ一本の野の草も芽を出していなかった。それは、神である【主】が地上に雨を降らせず、土地を耕す人もいなかったからである。

Gen 2:6 ただ、水が地から湧き出て、土地の全面を潤していた。

④ましてや、洪水は想像すらできないことであった。

(3) 信仰とは、神からの啓示に対する応答である。

①ノアは神を信じ、箱舟を造った。

②陸地に舟を造った。

③ことわざ 「陸地に舟漕ぐ」（ろくじにふねこぐ）

\* 「陸で舟を漕ぐこと、出来ないこと、無理なことのたとえ」

④彼は、間違いなく嘲りの対象となったはずである。

(4) しかし、彼の信仰は報われた。

①彼の家族は助かった。

②彼の生き方と証しによって、この世は罪に定められた。

③彼は、信仰による義を相続する者となった。

④より具体的には、彼は、洪水後の新しい世界を相続する者となった。

⑤この手紙の読者には、「来たるべき世」が約束されている。

## II. アブラハム (8~10 節)

### 1. 8 節

Heb 11:8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。

(1) アブラハムは、カルデアのウルという町に住んでいた。

- ①彼は、恐らく偶像礼拝者であっただろう。
- ②彼は、神からの召しを受けた。
- ③創12：1

Gen 12:1 【主】はアブラムに仰せられた。／「あなたは、／あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、／わたしが示す地へ行きなさい。

(2) 信仰とは、神の啓示に対する応答である。

- ①アブラハムは、神が「ストップ」というまで前進し続けた。
- ②彼は、その地が相続財産として約束されたことを知っていた。
- ③これは、信仰の父アブラハムの最初の従順な行為であった。

## 2. 9～10節

Heb 11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

Heb 11:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

(1) アブラハムにはカナンが約束された。

- ①しかし、存命中に彼が得たのは、マクペラの墓地だけであった。  
\*彼はそこにサラを葬った。

(2) 彼は、自分に約束された地に、他国人のようにして住んだ。

- ①天幕は、寄留者としての生活の象徴である。
- ②彼の生き方は、息子のイサクや孫のヤコブに影響を与えた。
- ③彼らもまた、アブラハムの信仰を継承した。
- ④アブラハム契約は、イサクとヤコブを通して継承された。

(3) 彼は目的地を見ていたので、寄留者の生活ができたのである。

- ①彼は、目に見える不動産よりも、目に見えないものに価値を置いていた。

(4) 「堅い基礎の上に建てられた都」

- ①「the city which hath the foundations」(ASV)
- ②定冠詞の付く町はただひとつ、天のエルサレムである。
- ③それは、神が設計し建設された都である。
- ④黙21：2

Rev 21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを見た。

\*天のエルサレムの描写(黙21:9~27)

- ⑤クリスチャンの最終的な希望は天のエルサレムである。
- ⑥これは、族長たちが待ち望んでいたものと同じである。
- ⑦ユダヤ的ルーツから切り離されたキリスト教は、神の計画の全貌を見ていないキリスト教である。

### III. サラ(11~12節)

#### 11節

Heb 11:11 信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。

- (1) 女性の信仰者が始めて登場する。
  - ①サラは90歳近くになって子を宿した。
  - ②すでに妊娠の可能性がない年齢に入っていたが、子が与えられると信じた。
  - ③約束してくださった方を真実な方と考えたからである。
  - ④彼女は、信仰によって子を宿す力を与えられた。

#### 12節

Heb 11:12 そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天の星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。

- (1) 死んだも同様のアブラハムから数多い子孫が生まれた。
  - ①彼が100歳の時に、イサクが誕生した。
  - ②イサクを通して、ヘブル民族が誕生した。
  - ③創22:17

Gen 22:17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。

- ④アブラハムからヘブル民族とアラブ民族が誕生した。
- ⑤この手紙の読者であるメシアニック・ジューたちも、その中に含まれる。
- ⑥サラは、信仰によってアブラハムの子孫が増えることに貢献した。

### IV. 族長たち(13~16節)

#### 13節

Heb 11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であるこ

とを告白していたのです。

- (1) 族長たちは、約束のものを手に入れることはなかった。
  - ①アブラハムは、数多い子孫を見ることはなかった。
  - ②ヘブル民族は、自分たちに約束された土地のすべてを所有することはなかった。
  - ③旧約時代の聖徒たちは、メシア預言の成就を見ることはなかった。
  - ④しかし、彼らの霊的視力は抜群であった。
  - ⑤彼らには約束のものが見えていたので、喜んで地上生涯を歩むことができた。
  
- (2) 彼らは、自分が旅人であり寄留者であることを告白していた。
  - ①目標は、この世の性質を宿すことなく、天の故郷に到達することである。

14～15 節

Heb 11:14 彼らはこのように言うことによって、自分の故郷を求めていることを示しています。

Heb 11:15 もし、出て来た故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会があったでしょう。

- (1) 彼らのライフスタイルは、彼らの故郷が天の故郷であることを示している。
  - ①彼らの故郷とは、出て来た故郷ではない。  
\*ウル、ハラン
  - ②アブラハムは、ウルやハランに帰ることもできたが、そうはしなかった。

16 節

Heb 11:16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事実、神は彼らのために都を用意しておられました。

- (1) 彼らは、天の故郷にあこがれていた。
  - ①神がイスラエルに与えた約束の多くは、物質的なものであった。
  - ②しかし、信仰者たちは、その先にある祝福を見ていた。
  
- (2) 神は、彼らの信仰を喜ばれた。
  - ①それゆえ、「アブラハム、イサク、ヤコブの神」と呼ばれることを良しとされた。
  - ②神は、彼らのために天の都を用意しておられた。

結論：

1. ノアの信仰から学ぶ

- (1) この手紙の読者たちは、もしイエスを信じるのが正しいのであれば、なぜ信者

が少ないのか、なぜ信者が迫害に会うのか、疑問に感じていたであろう。

(2) 私たちも、同じような疑問を持つことがある

(3) ノアの時代を思い起こそう。

①神の警告を信じたのは、たった8人であった。

②それ以外の人たちは、ノアが箱舟を造るのを見て、からかっていた。

③真理は、多数決で決まるのではない。

## 2. アブラハムの信仰から学ぶ

(1) 彼は、どこに行くのかを知らないで出て行った。

①これは、神の啓示に対する信仰の応答である。

②知らないがゆえに、信仰が働く余地がある。

(2) 信仰による行為と、無謀な行為とを区別する必要がある。

①信仰による行為は、神のことばへの応答である。

②信仰による行為は、人間の側の責務を果たす(万全の準備をする)。

③無謀な行為は、主観的な直感を重視する。

④無謀な行為は、人間の側の責務を果たさない(無責任を土台とする)。

## 3. サラの信仰から学ぶ

(1) サラはアブラハムにハガルを与えた(創16章)。

①サラは、アブラハムに息子が与えられることを信じた。

②結果的に、イシュマエルが誕生した。

(2) 神の顕現があった(創18章)。

①サラが息子を産むことが告げられた。

②ソドムとゴモラの滅びが予告された。

③サラは、②が成就するのを見て、①も成就することを信じることができた。

(3) ヘブ11:11

Heb 11:11 信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。

①「種を宿す力を与えられた」(口語訳)

②ギリシア語で「スペルマ」である。

③サラの信仰は、アブラハムの信仰とともに働いて、イサクが誕生した。

④サラの信仰とアブラハムの信仰がひとつのものとして論じられている。

## 4. 族長たちの信仰から学ぶ

(1) 彼らは、信仰によって歩んだ。

- (2) 神の約束がすべて成就するのを見たわけではない。
- (3) 約束のものを受けないままで死を迎えても、信仰は揺らがなかった。
- (4) 神の約束が成就するのは、来たるべき世においてである。
- (5) 彼らは、地上の故郷の戻るつもりはなかった。
- (6) それゆえ、読者も元の場所に戻る必要はない。

「信仰者のリスト(3)」

ヘブル11:17~22

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①学んだことの適用(10:19~13:25)
- ②すでに背教は、ある人々の間で起こっている。
- ③この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ④今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ⑤信仰による忍耐を発揮した旧約聖書の信仰の英雄たちがリストアップされる。
- ⑥著者は、読者には旧約聖書の知識があることを前提に書いている。
- ⑦これは、ユダヤ人の歴史の要約でもある。

\* 「historical retrospective」(歴史的回顧)という文学手法である。

(2) これまで登場した信仰の勇士たち

- ①アベル(4節)、②エノク(5~6節)、③ノア(7節)
- ④アブラハム(8~10節)、⑤サラ(11~12節)、⑥族長たち(13~16節)

(3) アウトライン

- ①アブラハム(17~19節)
- ②イサク(20節)
- ③ヤコブ(21節)
- ④ヨセフ(22節)

結論:

- (1) イサク奉獻の命令
- (2) 「ひとり子」の意味

信仰の勇士たちの信仰から学ぶ。

I. アブラハム(17~19節)

1. 17~18節

Heb 11:17 信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたのです。

Heb 11:18 神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる」と言われたのですが、

(1) アブラハムにとっての最大の信仰のテストが与えられた。

①創 22 : 2

Gen 22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

②アブラハムは、神のことばを字義通りに解釈した。

③翌朝早く、彼は出発した。

④三日目に、モリヤの山が見えた。

⑤その山に登り、イサクをささげた。

(2) アブラハムは、ジレンマに陥った。

①神は彼に、数多くの子孫を約束された。

②その子孫は、イサクから増え広がることになっていた。

③そのイサクが死ねば、神の約束はどうなるのか。

\*アブラハム契約は、イサクが継承する。

④当時イサクはおよそ30歳、アブラハムは130歳であった。

## 2. 19節

Heb 11:19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。

(1) 神の約束は必ず成就する。神の啓示に対する応答が信仰である。

①イサクをささげたとしても、神は、イサクをよみがえらせることができる。

②それまでの記録の中には、死者が復活したという例がなかった。

③激しい葛藤を通過する中で、彼は復活信仰を見出したのである。

④結局彼は、イサクを殺さなくてもよくなった。

(2) 訳文の比較

「それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です」(新改訳)

「それで彼は、イサクを返してもらいましたが、それは死者の中から返してもらったも同然です」(新共同訳)

「だから彼は、いわば、イサクを生きかえして渡されたわけである」(口語訳)

「乃(すなは)ち死より之を受けしが如くなりき」(文語訳)

「from whence he did also in a figure receive him back.」(ASV)

\* 「in a figure」 「エン パラボレイ」 (ε ν παραβολη )

\*ヘブ9:9

Heb 9:9 この幕屋はその当時のための比喩です。それに従って、ささげ物といけにえとがささげられますが、それらは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。

\* 「パラボレイ」は天的真理の影である。この出来事は、復活を示す影である。

## II. イサク (20 節)

### 1. 20 節

Heb 11:20 信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤコブとエサウを祝福しました。

(1) イサクに関しては、最小限の情報しかない。

- ①彼の信仰の特徴は、「受け身」である。
- ②父アブラハムの信仰に従い、自らをささげた。
- ③井戸を掘り当てても、紛争を避けて、次の井戸を掘り始める人である。

(2) 彼は、弟のヤコブよりも兄のエサウを優先させようとした。

- ①しかし、神の御心はそれとは正反対のものであった。
- ②盲目になった彼は、リベカとヤコブに欺かれて、ヤコブを祝福した。
- ③後にそのことを知った彼は、神の御心の前に砕かれた。
- ④彼は、信仰によって、未来のことについてそれぞれを祝福した。

## III. ヤコブ (21 節)

### 1. 21 節

Heb 11:21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました。

(1) ヤコブの霊性は、年を重ねるに従って成長していった。

- ①ヤコブもまた、信仰の勇士のひとりに数えられている。

(2) 晩年のヤコブは、豊かな霊的視力を保持するようになっていた。

- ①彼は、ヨセフの2人の息子、マナセとエフライムを祝福した(養子縁組)。
- ②右手を弟のエフライムの上に、左手を兄のマナセの上に置いた。
- ③ヨセフは、父ヤコブの誤りを指摘したが、ヤコブはこれでよいと言った。
- ④ヤコブは、エフライムを優先させることが御心であることを知っていた。
- ⑤その啓示に対する応答として、両手を交差させて孫たちの頭の上に置いた。

(3) ヤコブの人生の最終章は、神への礼拝である。

①これは、信仰の勇士の究極的な姿である。

#### IV. ヨセフ (22 節)

##### 1. 22 節

Heb 11:22 信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました。

(1) 神は、イスラエルの民をエジプトからカナンの地に導かれると約束された。

①ヨセフの信仰は、その啓示に対する応答である。

②彼にとっては、出エジプトの出来事は、未来完了形であった。

③エジプトの富と栄華に囲まれながら、彼の心はカナンの地にあった。

(2) 彼は、自分の骨をカナンの地に運び上げるように指図した。

①カナンの地で埋葬されることが彼の願いであったが、それは成就した。

②ヨシ 24 : 32

Jos 24:32 イスラエル人がエジプトから携え上ったヨセフの骨は、シェケムの地に、すなわちヤコブが百ヶシタでシェケムの父ハモルの子らから買い取った野の一面に、葬った。そのとき、そこはヨセフ族の相続地となっていた。

#### 結論 :

##### 1. イサク奉獻の命令

(1) 神は、アブラハムが自分の息子を殺すことを意図されたわけではない。

(2) 神は、ご自身の民が子どもをささげることを期待されたことは一度もない。

①エレ 32 : 35

Jer 32:35 わたしが命じもせず、心に思い浮かべもしなかったことだが、彼らはモレクのために自分の息子、娘をささげて、この忌みきらうべきことを行うために、ベン・ヒノムの谷にバアルの高き所を築き、ユダを迷わせた。」

(3) これは、信仰のテストである。

(4) このテストによって、アブラハムの信仰の真実性が証明された。

(5) 神は彼のために、雄羊を用意しておられた。

①創 22 : 14

Gen 22:14 そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、

【主】の山の上には備えがある」と言い伝えられている。

## 2. 「ひとり子」の意味

(1) イサクは、アブラハムから生まれた「ひとり子」ではなかった。

①イシュマエルがすでに生まれていた。

\*イスラム教は、アブラハムはイシュマエルをささげたと主張する。

②後に、アブラハムは6人の息子を得るようになる。

(2) 「ひとり子」とは、「比類なき子」という意味である。

①イサクは、サラから生まれた唯一の子であった。

②イサクは、アブラハム契約を継承する唯一の子であった。

(3) ヨハ3:16

Joh 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

①イエスは、「神のひとり子」である。

②イエスが神によって創造されたという意味ではない。

③イエスは、神の子たちの中で「比類なき子」である。

\*天使たちは、創造のゆえに「神の子たち」である。

\*信者は、養子縁組によって「神の子たち」とされた。

\*イエスは、永遠の神の子である。それゆえ、「神のひとり子」である。

(4) 神は、アブラハムがひとり子をささげる前に、それを止めさせた。

①アブラハムがイサクをささげる決心をただけで、十分であった。

②しかし、御子イエスが十字架上で死なれたとき、それを止める声はなかった。

\*ここに神の愛がある。

「信仰者のリスト（4）」

ヘブル 11：23～31

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①学んだことの適用（10：19～13：25）
- ②すでに背教は、ある人々の間で起こっている。
- ③この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ④今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ⑤信仰による忍耐を発揮した旧約聖書の信仰の英雄たちがリストアップされる。
- ⑥著者は、読者には旧約聖書の知識があることを前提に書いている。
- ⑦これは、ユダヤ人の歴史の要約でもある。

(2) これまで登場した信仰の勇士たち

- ①族長時代以前
- ②族長時代
- ③この箇所から、荒野の40年の時代が始まる。

(3) アウトライン

- ①モーセの両親（23節）
- ②モーセ（24～28節）
- ③イスラエルの民（29～30節）
- ④ラハブ（31節）

結論：

- (1) イスラエル人の不信仰
- (2) イスラエル人の最初の信仰の行為
- (3) イスラエル人の最後の信仰の行為
- (4) まとめ

信仰の勇士たちの信仰から学ぶ。

I. モーセの両親（23節）

1. 23節

Heb 11:23 信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。

(1) この節は、モーセの信仰ではなく、モーセの両親の信仰を記録している。

①彼らは、「その子の美しいのを見た」。

\*ギリシア語で「アステイオス」。

\*新約聖書では、ここと使7:20だけ(ともにモーセへの言及)。

②外見的な美しさだけではなく、その子に与えられた運命を示唆する言葉である。

③両親は、その啓示に応答したのである。

\*王の命令を恐れず、その子を三ヶ月間隠した。

## II. モーセ(24~30節)

### 1. 24~26節

Heb 11:24 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、

Heb 11:25 はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

Heb 11:26 彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いましたが。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。

(1) モーセは、自らが神の選びの民の一員であるという事実に対し正しく応答した。

①彼にとって、エジプトの王家の一員に留まることは、ステップダウンであった。

②彼は、神の民とともに苦しむことを選び取った。信仰による選びである。

③もし彼がこの選びをしなかったら、彼はピラミッドに葬られたであろう。

④今頃は、カイロの博物館に「モーセのミイラ」が展示されていたかもしれない。

⑤しかし彼の名は、永遠の書である聖書の中に信仰の勇士として記録されている。

(2) 「キリストのゆえに受けるそしり」

①「the reproach of Christ」(ASV)

\*「キリストが経験されたようなそしり」

\*「キリストの苦しみとの同一化」

②彼は、エジプトの富よりもキリストの苦しみとの同一化に価値を見出した。

③彼の霊的目は、終末論的祝福を見ていた。

### 2. 27節

Heb 11:27 信仰によって、彼は、王の怒りを恐れなくて、エジプトを立ち去りました。目に見えない方を見るようにして、忍び通したからです。

(1) モーセは、エジプトを脱出した。

①パロを恐れなかった。パロ以上に王の王である方を恐れたからである。

②1テモ6:15~16

1Ti 6:15 その現れを、神はご自分の良しとする時に示してください。神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、

1Ti 6:16 ただひとり死のない方であり、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれひとり見たことのない、また見ることもできない方です。誉れと、とこしえの主権は神のもので。アーメン。

### 3. 28 節

Heb 11:28 信仰によって、初子を滅ぼす者が彼らに触れることのないように、彼は過越と血の注ぎとを行いました。

(1) モーセは、エジプトの信仰と決別した。

①彼は、エジプトの偶像ではなく、【主】のことばを信じた。

②彼は、救いはナイル川の水にではなく、小羊の血にあることを信じた。

③彼は、過越の祭りをイスラエルの民の信仰の中に導入した。

(2) その結果、彼は【主】の奇跡を目撃した。

①エジプトの初子たちは滅ぼされたが、イスラエルの初子たちは助かった。

②信じる者には、贖いの血は効果を発揮する。

## Ⅲ. イスラエルの民(29~30 節)

### 1. 29 節

Heb 11:29 信仰によって、彼らは、かわいた陸地を行くのと同様に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしたが、のみこまれてしまいました。

(1) エジプトを出た民は、逃れる場がないような状態に追い込まれた。

①後ろから敵が追ってくる。

②前には海が広がっている。

③出14:21

Exo 14:21 そのとき、モーセが手を海の上に差し伸ばすと、【主】は一晩中強い東風で海を退かせ、海を陸地とされた。それで水は分かれた。

(2) 彼らは神のことばに応答して、紅海を渡った。

①出14:16

Exo 14:16 あなたは、あなたの杖を上げ、あなたの手を海の上に差し伸ばし、海を分けて、イ

イスラエル人が海の真ん中のかわいた地を進み行くようにせよ。

(3) エジプトも同じようにしようとしたが、海に飲み込まれてしまった。

①神のことばは、彼らに与えられたものではなかった。

②つまり、信仰が成立する余地がないのである。

## 2. 30節

Heb 11:30 信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁はくずれ落ちました。

(1) 城壁の町エリコは、難攻不落の要塞であった。

①より優れた戦力を用意して戦いを挑むのが常識である。

②しかし、神は別の戦略を指示された。

\*民は7日間、エリコの城壁の周囲を回った。

\*7日目には、7度回った。

\*祭司たちは角笛を吹き鳴らした。

\*民は叫び声を上げた。

\*城壁は崩れた。

(2) 霊的戦いの武器は、この世のものではなく、神のことばに対する信仰である。

①2コリ 10:4

2Co 10:4 私たちの戦いの武器は、肉の物ではなく、神の御前で、要塞をも破るほどに力のあるものです。

## IV. ラハブ (31節)

Heb 11:31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。

### 1. 31節

(1) カナン人たちの一般的な認識

①エジプトでの出来事、出エジプト、荒野の放浪に関する知識を持っていた。

②その点では、ラハブも他のエリコの住民も同じであった。

③違いは、その知識にどのように応答したかという点である。

(2) ラハブは、信仰によって応答した。

①イスラエル人のスパイをかくまった。

- ②彼女は、イスラエルの神を信じたのである
- ③その結果、自分と家族の命を救うことができた。
- ④マタ1:5~6

Mat 1:5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、

Mat 1:6 エッサイにダビデ王が生まれた。

## 結論：イスラエルの民の信仰

### 1. イスラエル人の不信仰

#### (1) 申 31 : 27

Deu 31:27 私は、あなたの逆らいと、あなたがうなじのこわい者であることを知っている。私が、なおあなたがたの間に生きている今ですら、あなたがたは【主】に逆らってきた。まして、私の死後はどんなであろうか。

- (2) ヘブ2~3章では、荒野でのイスラエルの民の不信仰が論じられた。
- (3) 不信仰のゆえに、彼らは荒野で滅んでしまった。
- (4) しかし著者は、イスラエル人が信仰によって行動した例を2つ上げる。

### 2. イスラエル人の最初の信仰の行為

#### (1) ヘブ 11 : 29

Heb 11:29 信仰によって、彼らは、かわいた陸地に行くのと同様に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしたが、のみこまれてしまいました。

- (2) 紅海を渡るという行為は、荒野の40年の最初に起こった出来事である。
- (3) 彼らは、信仰によって自然界の障害を乗り越えることができた。

### 3. イスラエル人の最後の信仰の行為

#### (1) ヘブ 11 : 30

Heb 11:30 信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁はくずれ落ちました。

- (2) エリコ征服は、荒野の40年の締めくくりとして起こった出来事である。
- (3) 彼らは、信仰によって敵を滅ぼすことができた。

### 4. まとめ

- (1) 信仰とは、神のことばへの応答である。
- (2) 信仰とは、時には常識や理性に反することを行うことである。

(3) リーダーの信仰が、フォロアーに大きな影響を与える。

①モーセの信仰が、イスラエルの民の信仰を生み出した。

②ヨシュアの信仰が、イスラエルの民の信仰を生み出した。

(4) ヨシ5:13~15

Jos 5:13 さて、ヨシュアがエリコの近くにいたとき、彼が目を上げて見ると、見よ、ひとりの人が抜き身の剣を手に持って、彼の前方に立っていた。ヨシュアはその人のところへ行って、言った。「あなたは、私たちの味方ですか。それとも私たちの敵なのですか。」

Jos 5:14 すると彼は言った。「いや、わたしは【主】の軍の将として、今、来たのだ。」そこで、ヨシュアは顔を地につけて伏し拝み、彼に言った。「わが主は、何をそのしもべに告げられるのですか。」

Jos 5:15 すると、【主】の軍の将はヨシュアに言った。「あなたの足のはきものを脱げ。あなたの立っている場所は聖なる所である。」そこで、ヨシュアはそうにした。

(5) すべての人は、なんらかの意味でリーダーである。

①まず、神を礼拝するところから始めよう。

②溜め池から溜め池へと放浪するのではなく、みことばという岩盤の下にある水を掘り当てよう。

(6) 聖書研究がもたらす祝福

①信仰が単純になる。

②信仰のアップダウンがなくなる。

③信仰が自然に成長する。

「信仰者のリスト（5）」

ヘブル 11：32～40

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①学んだことの適用（10：19～13：25）
- ②すでに背教は、ある人々の間で起こっている。
- ③この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ④今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ⑤信仰による忍耐を発揮した旧約聖書の信仰の英雄たちがリストアップされる。
- ⑥著者は、読者には旧約聖書の知識があることを前提に書いている。
- ⑦これは、ユダヤ人の歴史の要約でもある。

\* 「historical retrospective」（歴史的回顧）という文学手法である。

(2) これまで登場した信仰の勇士たち

- ①族長たち以前
- ②族長たち
- ③荒野の40年
- ④カナン定住後

(3) アウトライン

- ①試練の中での信仰（32～38節）
- ②信仰の勝利（39～40節）

結論：ヘブル書11章からの教訓

信仰の勇士たちの信仰から学ぶ。

I. 試練の中での信仰（32～38節）

1. 32節

Heb 11:32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても話すならば、時間が足りないでしょう。

(1) 「これ以上、何を言いましょうか」

- ①これは、修辞疑問文である。

- ②これまでの信仰の勇者のリストで十分で、これ以上付け加える必要がない。
- ③例示すべき人物が尽きたわけではなく、時間がなくなったのである。
- ④そこで著者は、詳細な説明は省いて、名前だけを紹介する。

(2) ギデオン

- ①彼の軍勢は、32,000人から300人に減らされた。
- ②最初は、臆病な者が帰らされた。
- ③次に、ひざをついて水を飲んだ者が除外された。

Jdg 7:6 そのとき、口に手を当てて水をなめた者の数は三百人であった。残りの民はみな、ひざをついて水を飲んだ。

- ④ギデオンは、300人の精鋭でミデヤン人を撃破した。
- ⑤彼は、セルフイメージが低かったが、信仰を発揮した。

(3) バラク

- ①彼は、イスラエルを率いてカナン人と戦った。
- ②彼は、女預言者デボラがともに行くことを条件とした。

Jdg 4:8 バラクは彼女に言った。「もしあなたが私と一緒に行ってくださいなら、行きましょう。しかし、もしあなたが私と一緒に行ってくださいらないなら、行きません。」

- ③彼は、臆病な性質を持っていたが、信仰を発揮した。

(4) サムソン

- ①彼は、ライオンを素手で殺した。
- ②彼は、アシュケロンで30人のペリシテ人を殺した。
- ③彼は、ロバのあごの骨で1,000人のペリシテ人を殺した。
- ④彼は、ガザの城門を運び去った。
- ⑤死ぬ直前に、ダゴンの宮を破壊し、それまで以上の数のペリシテ人を殺した。

Jdg 16:30 そしてサムソンは、「ペリシテ人と一緒に死のう」と言って、力をこめて、それを引いた。すると、宮は、その中にいた領主たちと民全体との上に落ちた。こうしてサムソンが死ぬときに殺した者は、彼が生きている間に殺した者よりも多かった。

- ⑥彼は、破天荒な人間で、女性に弱かったが、信仰を発揮した。

(5) エフタ

- ①彼は、アモン人の圧政からイスラエルの民を解放した。

Jdg 11:1 さて、ギルアデ人エフタは勇士であったが、彼は遊女の子であった。エフタの父親はギルアデであった。

Jdg 11:2 ギルアデの妻も、男の子たちを産んだ。この妻の子たちが成長したとき、彼らはエフタを追い出して、彼に言った。「あなたはほかの女の子だから、私たちの父の家を受け継いではいけない。」

②彼は、不幸な境遇に生まれたが、信仰によってそれを乗り越えた。

(6) ダビデ

①彼は、ゴリアテに勝利した。

②彼は、サウル王に復讐しなかった。

③彼は、エブス人の町シオンを征服し、そこを統一王国の都とした。

④彼は、数多くの詩篇を残した(忍耐、賛美、預言)。

⑤彼は、多くの弱点を持っていたが、信仰を発揮した。

(7) サムエル

①彼は、最後の士師であり、最初の預言者である。

②彼は、祭司たちが墮落していた時代にあって、神の器として民を導いた。

1Sa 8:1 サムエルは、年老いたとき、息子たちをイスラエルのさばきつかさとした。

1Sa 8:2 長男の名はヨエル、次男の名はアビヤである。彼らはベエル・シェバで、さばきつかさであった。

1Sa 8:3 この息子たちは父の道に歩まず、利得を追い求め、わいろを取り、さばきを曲げていた。

③彼は、弱点を持っていたが、信仰を発揮した。

(8) 預言者たち

①彼らは、神の代弁者として民に語りかけた。

②妥協よりも、死を選んだ。

③彼らにも、弱点はあった。

2. 33~34節

Heb 11:33 彼らは、信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを得、獅子の口をふさぎ、

Heb 11:34 火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れました。

(1) ここでは、名前ではなく、信仰の結果がリストアップされる。

①「信仰によって、国々を征服し、」

\*ヨシュア

\*士師たち

\*ダビデなど

②「正しいことを行い、」

\*ソロモン

\*アサ、ヨシャパテ、ヨアシュ、ヒゼキヤ、ヨシヤ

③「約束のものを得、」

\*神は彼らと契約を結ばれた(アブラハム、モーセ、ダビデなど)。

\*あるいは、約束の成就を見たという意味かもしれない。

④「獅子の口をふさぎ、」

\*ダニエル、サムソン、ダビデ(1サム17:34~35)

⑤「火の勢いを消し、」

\*3人のヘブル人の青年(シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ)

Dan 3:25 すると王は言った。「だが、私には、火の中をなわを解かれて歩いている四人の者が見える。しかも彼らは何の害も受けていない。第四の者の姿は神々の子のようだ」

\*ネブカデネザル王は驚いた。

\*祝福は、苦難に変装してやって来た。

⑥「剣の刃をのがれ、」

\*ダビデは、サウル王から逃れた。

\*エリヤは、イゼベルから逃れた。

\*エリシャは、アラムの王から逃れた。

⑦「弱い者なのに強くされ、」

⑧「戦いの勇士となり、」

⑨「他国の陣営を陥れました」

3. 35節

Heb 11:35 女たちは、死んだ者をよみがえらせていただきました。またほかの人たちは、さらにすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを願わないで拷問を受けました。

(1) 死者を取り戻した女たち

①ツアレファテのやもめとエリヤ

1Ki 17:9 「さあ、シドンのツアレファテに行き、そこに住め。見よ。わたしは、そのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。」

②シュネムのやもめとエリシャ

2Ki 4:34 それから、寝台の上に上がり、その子の上に身を伏せ、自分の口を子どもの口の上に、自分の目を子どもの目の上に、自分の両手を子どもの両手の上に重ねて、子どもの上に身をかがめると、子どものからだは暖かくなってきた。

(2) さらにすぐれたよみがえりを得るために、釈放よりも拷問を選んだ人たち

①棄教して生き延びるよりも、よりよいものを得るために死を選んだ。

#### 4. 36～38 節

Heb 11:36 また、ほかの人たちは、あざげられ、むちで打たれ、さらに鎖につながれ、牢に入れられるめに会い、

Heb 11:37 また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、

Heb 11:38 ——この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした——荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。

(1) 「この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした」

①この世は、彼らが無価値なものとして排除した。

②しかし、神の目からは、この世は彼らにふさわしくなかった。

③「この世は彼らの住む所ではなかった」（口語訳）

## II. 信仰の勝利（39～40 節）

### 1. 39 節

Heb 11:39 この人々はみな、その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。

(1)（新共同訳）

Heb 11:39 ところで、この人たちはすべて、その信仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。

①旧約聖書の聖徒たちは、その信仰が神に認められていた。

②しかし、約束されたものを手に入れなかった。

\*約束の成就を見なかった。

③彼らは、メシアの到来を目撃することができなかった。

④また、自分たちの奉仕から流れ出る祝福を目撃することもなかった。

### 1. 40 節

Heb 11:40 神は私たちのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたので、彼らが私たちと別に全うされるということはなかったのです。

(1) 彼ら（旧約時代の聖徒たち）が約束されたものを得なかった理由

①私たち（新約時代の聖徒たち）とともに約束の成就を味わうためである。

結論：ヘブル書11章からの教訓

1. 旧約時代の信仰の勇者たちは、それぞれ欠点を持ちながらも、信仰を発揮した。

Joh 1:42 彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンに目を留めて言われた。  
「あなたはヨハネの子シモンです。あなたをケパ(訳すとペテロ)と呼ぶことにします。」

2. 彼らは、この世からは評価されず、迫害された。

(1) 神の評価は、「この世は彼らにふさわしくなかった」ということである。

3. 彼らは、終末論的信仰を持っていた。

Heb 11:40 神は私たちのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたので、  
彼らが私たちと別に全うされるということはなかったのです。

(1) 彼らは、全うされなかった。

\* 「完全な状態に達しなかったのです」(新共同訳)

① 完全な罪の赦しを体験することはなかった(罪は一時的に覆われただけ)。

② 天において、復活の体を受けることはなかった。

\* 新約時代(教会時代)の聖徒たちは、携挙の時に栄光の体を受ける。

\* 旧約聖書の聖徒たちは、キリストの再臨の後に栄光の体を受ける。

(2) 旧約時代の聖徒は、新約時代の聖徒のような特権を与えられていなかった。

① その上で、彼らの信仰の忍耐を考えよ。

(3) 著者は、「ユダヤ教への回帰を考えているとは、どういうことか」と迫っている。

「信仰の訓練」

ヘブル 12:1~11

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①学んだことの適用 (10:19~13:25)
- ②すでに背教は、ある人々の間で起こっている。
- ③この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ④今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ⑤11章では、信仰による忍耐を発揮した信仰の英雄たちがリストアップされた。
- ⑥12章では、信仰者の訓練について語られる。

(2) アウトライン

- ①信仰の創始者であり完成者であるイエス (1~2節)
- ②信仰の訓練 (3~11節)

結論：苦難の意味

信仰の訓練について学ぶ。

I. 信仰の創始者であり完成者であるイエス (1~2節)

1. 1節

Heb 12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

(1) 「こういうわけで」

- ①この手紙は、迫害に会っているメシアニック・ジューのために書かれた。
- ②彼らは、苦難の意味を誤解する可能性があった(神の裁き)。
- ③このままでは、元のユダヤ教に回帰する危険性があった。
- ④11章でリストアップされた信仰者たちの多くが迫害に会った。
- ⑤彼らは、限定された情報量しかなかったが、信仰によって忍耐した。
- ⑥ましてや、イエス・キリストの福音を知った私たちが忍耐できないはずはない。

(2) 「多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いている」

- ①多くの証人たちが、天から地上の出来事を見ているということではない。
- ②彼らは、観客ではなく、証人である。
- ③彼らは、信仰の忍耐を発揮した証し人である。
- ④天に召された聖徒たちは、地上のことについてどれほど情報を持っているのか。
- ⑤分からないが、確実に言えることがひとつある。

Luk 15:7 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。

(3)「私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか」

- ①ここでは、クリスチャン生活が陸上競技にたとえられている。
- ②大競技場には観客席が幾重にも聳えている。
  - \*すでに競技を終えた者たちが私たちを見ている。
  - \*彼らは傍観者ではなく、私たちが見習うべき手本である。
- ③陸上競技には訓練と忍耐が必要である。
- ④重荷を持っていては、速く走ることができない。

(ILL) 貝に挟まれた鳥
- ⑤重荷とは何か。物質主義、怠惰、誤った人間関係など。
- ⑥まつわりつく罪とは何か。あらゆる罪であるが、特に不信仰の罪。
  - \*不信者は、神を信じないことが最大の罪であるとの認識がない。
  - \*霊的幼子も、不信仰が罪であるという認識が希薄である。
- ⑦罪を捨てるとは、古い衣を脱ぎ捨てることである(アポティセイミ)。

Col 3:8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。

- ⑧私たちは、この競争を忍耐をもって走り続ける。
- ⑨ゴールは、すでに設定されている。
  - \*シャカイナグローリーとともに住むことがゴールである。

## 2. 2節

Heb 12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

- (1)「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい」
  - ①多くの証人の中でひととき目立つのが、イエスである。
  - ②イエスこそ、信仰の忍耐を完璧に示したお方、完全な手本である。

- ③私たちが目指している信仰のパイオニアである。
- ④私たちが目指している信仰の完成者である。
- ⑤そのイエスから目を離してはならない。

(2) イエスが完走されたコース

- ①天からベツレヘムへ
- ②ベツレヘムからゲツセマネ、そしてゴルゴタへ
- ③ゴルゴタから墓へ
- ④墓から天へ

(3) その間イエスは、一度も後ろを振り向いたことはなかった。

- ①前に置かれた喜びを見続けいていた。
- ②父なる神の右の座に座すこと。
- ③贖われた者たちが、永遠に自分の元を集められるということ。
- ④それゆえ、はずかしめや十字架の苦難に耐えることができた。

(4) イエスは、父なる神の右の座に着座された。

- ①今もその状態が続いている。
- ②イエスは、私たちのための大祭司である。

## II. 信仰の訓練 (3～11 節)

### 1. 3～4 節

**Heb 12:3 あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。**

**Heb 12:4 あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことはありません。**

(1) ここから、著者が描く情景が変わる。

- ①情景は、「競技」から「罪との格闘」に変わる。

(2) 絶望しそうになるとき、どうすればよいのか。

- ①イエスほど、罪人たちからの攻撃を忍ばれた方はいない。
- ②信仰が試みられるとき、私たちはイエスのことを考えるべきである。
- ③イエスが通過された苦難を考えると、私たちの苦難は取るに足りない。
- ④それが分かると、元気を回復することができる。

(3) 「あなたがたはまだ、罪と戦って、血を流すまで抵抗したことはありません」

①罪との戦いとは、罪人たちとの戦いである。

\*自らの罪も含めて考えることができる。

②血を流すまでとは、死に至るまでという意味である。

③イエスは、死に至るまで信仰の忍耐を発揮された。

④旧約聖書の英雄たちの多くも、同じ経験をした。

## 2. 5～6節

Heb 12:5 そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。／「わが子よ。／主の懲らしめを軽んじてはならない。／主に責められて弱り果ててはならない。

Heb 12:6 主はその愛する者を懲らしめ、／受け入れるすべての子に、／むちを加えられるからである。」

(1) 苦難は、神の裁きではなく、神が与える訓練である。

①箴3:11～12

Pro 3:11 わが子よ。【主】の懲らしめをないがしろにするな。／その叱責をいとうな。

Pro 3:12 父がかわいがる子をしかるように、／【主】は愛する者をしかる。

## 4. 7～8節

Heb 12:7 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。

Heb 12:8 もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。

(1) 霊的世界での真理

①父なる神は、信者を子として扱われる。

②それゆえ、その子を育てるために懲らしめを与える。

③もし懲らしめを受けていないなら、その人は真の信者ではない。

(2) 物質的世界でも同じことが言える。

①農夫は、ぶどうの木を刈り込むが、いばらは放置したままにする。

## 5. 9～10節

Heb 12:9 さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。

Heb 12:10 なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちに懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。

(1) 肉の父親と霊の父の対比

- ①肉の父は、私たちに懲らしめた。成長するため。
- ②私たちはそれを、父の愛として理解し、父を敬った。
- ③肉の父親は、短い期間、自分の判断で私たちに懲らしめる。
- ④霊の父親は、それ以上の目的をもって私たちに懲らしめる。  
\*ご自身の聖さにあずからせるため(救いの完成)
- ⑤それゆえ、霊の父親を敬い、霊の父親に従うべきである。

6. 11 節

Heb 12:11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。

(1) 信者が経験する苦難

- ①そのときは喜ばしいものではなく、悲しく思われるものである。
- ②後になると、それが平安な義の実を結ばせる。

結論：苦難の意味

(1) キリスト教信仰に入り込んでくる非聖書的要素

- ①ギリシア哲学の影響(聖書の比喩的解釈)
- ②ニューエイジ運動の影響(人間の神格化)
- ③理性中心主義の影響(人間の理性が聖書の上に立つ)
- ④ポストモダン思想の影響(神の権威の否定)
- ⑤異教の影響(霊的戦いの再解釈)
- ⑥積極思考(可能性思考、自己啓発思考)の影響(苦難の意味の喪失)

(2) ヘブ 12:5~6

Heb 12:5 そして、あなたがたに向かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れていません。／「わが子よ。／主の懲らしめを軽んじてはならない。／主に責められて弱り果ててはならない。

Heb 12:6 主はその愛する者を懲らしめ、／受け入れるすべての子に、／むちを加えられるからである。」

- ①苦難は、神が私たちを見捨てたというしるしではない。

- ②苦難は、偶然起こるものでもない。
- ③苦難は、神が私たちが教育される方法である。

(3) 苦難の意味

- ①苦難は神が作り出すものではない。
- ②神は、苦難が私たちに襲うことを許される。
- ③神は、ご自身の栄光のために、苦難を祝福に変える。
- ④クリスチャンにとって偶然はない。
- ⑤人生の「dis-appointment」は「His-appointment」である。
- ⑥神は苦難を用いて、私たちがキリストの似姿に変えてくださる。

(3) 懲らしめの意味

- ①ギリシア語で「パイデイア」である。
- ②子どもを教育するという意味である。
- ③その中には、警告、矯正、処罰も含まれるが、主要な意味は訓練である。
- ④懲らしめとは、悪行に対する罰ではなく、苦難を通した訓練である。
- ⑤懲らしめを受けるのは、神に愛されている証拠である。

(4) 神の学校での学び

- ①神の訓練に服従するなら、神は私たちがキリストの似姿に作り上げてくださる。
- ②神の学校に飛び級はない。
- ③訓練を短縮しようとする、長期にわたり訓練を受けることになる。
- ④また、より厳しい懲らしめを通過することになる。
- ⑤神の訓練を終えた者だけが、次の学年に進級することができる。

「試練の中で働く信仰」

ヘブル 12 : 12~17

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①学んだことの適用 (10 : 19~13 : 25)
- ②すでに背教は、ある人々の間で起こっている。
- ③この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ④今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ⑤11章では、信仰による忍耐を発揮した信仰の英雄たちがリストアップされた。
- ⑥12章では、信仰者の訓練について語られる。

(2) アウトライン

- ①追求すべき4つのこと (12~14節)
- ②避けるべき4つのこと (15~17節)

結論 : 聖化とは

試練の中で働く信仰について学ぶ。

I. 追求すべき4つのこと (12~14節)

1. 意識の変更 (12節)

Heb 12:12 **ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。**

(1) 「ですから」

- ①信者が遭遇する試練には、意味がある。
- ②神は、愛する者を訓練される。
- ③それによって平安な義の実を結ばせるためである。
- ④それゆえ、信者はこの真理に霊的一新をもって応答すべきである。

(2) 「弱った手と衰えたひざ」

- ①手とひざが弱っている。
  - \*これは、内面的失望の外面的表れである。
  - \*いつも顔が曇っている信者や、不平不満ばかり口にしてしている信者がいる。
- ②そういう信者は、意識を一新する必要がある。

(3) 「まっすぐにしなさい」

- ① 「されば衰へたる手、弱りたる膝を強くし、」(文語訳)
- ② ギリシア語の「アノルソオウ」である。上げる、まっすぐにする、強くする。
- ③ ルカ 13:13 (18年も病の霊につかれ、腰が曲がって、伸ばすことができない)

Luk 13:13 手を置かれると、女はたちどころに腰が伸びて、神をあがめた。

- ④ 手と膝は強くされる必要がある。
  - \*強い手は、主への奉仕のため。
  - \*強い膝は、祈りのため
- ⑤ 強くされることは神の業であるが、自分の責任でもある。
- ⑥ 試練の中を通過する信者の姿を、誰かが見ている。

2. まっすぐな道 (13節)

Heb 12:13 また、あなたがたの足のためには、まっすぐな道を作りなさい。なえた足が関節をはずさないため、いやむしろ、いやされるためです。

(1) 「まっすぐな道」

- ① 「曲がった道」に対する意味での「まっすぐな道」ではない。
- ② これは、義なる道、通りやすい道である。
- ③ 背景に箴 4:26 がある。

Pro 4:26 あなたの足の道筋に心を配り、／あなたのすべての道を堅く定めよ。

- ④ 信仰の忍耐を働かせている人は、他の信仰者のために道を切り拓いている。

(2) 「なえた足が関節をはずさないため、いやむしろ、いやされるためです」

- ① その人の信仰を見て、信仰の弱い人たちは、それ以上弱くなることはない。
- ② むしろ、信仰の道を歩くことによって、その信仰が癒やされる。
- ③ イザ 50:4 (メシア預言)

Isa 50:4 神である主は、私に弟子の舌を与え、／疲れた者をことばで励ますことを教え、／朝ごとに、私を呼びさまし、／私の耳を開かせて、／私が弟子のように聞くようにされる。

\*疲れた者を行いと言葉で励ますことを知っている信者は、幸いである。

(ILL) 聖地旅行でのリーダーの判断

3. すべての人との平和 (14節 a)

Heb 12:14a すべての人との平和を追い求め、

- (1) この勧めには、普遍的適用がある。
  - ① 信者であってもなくても、平和を追い求めることは重要である。

(2) しかし、試練の中にいる人には、特に重要な勧告である。

- ①孤独と自己憐憫
- ②迫害する者への怒りと憎しみ
- ③隣人への猜疑心
- ④爆発寸前の精神的な抑圧

#### 4. 聖化 (14節b)

**Heb 12:14ab また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることはできません。**

(1) 「聖められること」

- ①ギリシア語で「ハギアスモス」、つまり「聖化」である。
- ②ロマ6:19で同じことが教えられている。

**Rom 6:19 あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。**

(2) 「聖くなければ、だれも主を見ることはできません」

- ①神と信者の間に罪が入り込めば、神を十分に体験することができなくなる。
- ②マタ5:8で同じことが教えられている。

**Mat 5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。**

## II. 避けるべき4つのこと (15~17節)

\*避けるべき4つのこととは、すべて背教と関係した罪である。

\*それゆえ、背教に対する強い警告となっている。

### 1. 神の恵みを拒否すること (15節a)

**Heb 12:15a そのためには、あなたがたはよく監督して、だれも神の恵みから落ちる者がないように、**

(1) 背教とは、神の恵みを拒否することである。

- ①クリスチャンであるかどうかの基準は、神の恵みを受け取っていることである。
- ②もし神の恵みを受け取っていないなら、その人は新生していない。

(2) 「よく監督して」

- ①監視ではなく、常に注意深くあるようにということである。

2. 苦い根 (15節b)

Heb 12:15b **また、苦い根が芽を出して悩ましたり、**

(1) 背教とは、心に苦い根を宿すことである。

- ①背教者は、何よりも神に対して苦々しい思いを抱くようになる。
- ②また、他の信者に対しても悪い感情を抱くようになる。
- ③背教者は、他の信者を悩ますようになる。

3. 汚れ (15節c)

Heb 12:15b **これによって多くの人が汚されたりすることのないように、**

(1) 背教とは、伝染病のようなものである。

- ①他の人たちは、背教者の不満、疑い、不信の言葉によって汚される。

4. 霊的無関心 (16節～17節)

Heb 12:16 **また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がいないようにしなさい。**

Heb 12:17 **あなたがたが知っているとおりに、彼は後になって祝福を相続したいと思ったが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもらう余地がありませんでした。**

(1) 背教と不道德とは、密接に関連している。

- ①背教は、不道德につながる。
- ②信者の交わりを避けるようになれば、その人は危険な状態にある。
- ③「不品行の者」は、罪を告白するよりも、神に責任をかぶせるようになる。
- ④2ペテ2:10

2Pe 2:10 **汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそのようなのです。彼らは、大胆不敵な、尊大な者たちで、榮譽ある人たちをそしって、恐れるところがありません。**

(2) 背教とは、霊的価値を認識しないことである。

- ①「俗悪な者」とは、「俗物」、「霊的価値を認識できない者」である。
- ②彼は、長子の権利の価値を認識できなかった。
  - \*単に財産を2倍相続する権利ではない。
  - \*アブラハム契約の継承者となる権利である。
- ③彼にとっては、目先の食欲を満たすことの方が重要であった。

(3) エサウは後悔した。

①しかし父イサクは、その状況を変えることができなかった。

②創27:33

Gen 27:33 イサクは激しく身震いして言った。「では、いったい、あれはだれだったのか。獲物をしとめて、私のところに持って来たのは。おまえが来る前に、私はみな食べて、彼を祝福してしまった。それゆえ、彼は祝福されよう。」

③エサウは後悔したが、「悔い改めの機会」は残されていなかった。

\*意図的な罪に関しては、悔い改めは難しい。

\*イスカリオテのユダの例がある。

(4) エサウの例は、背教を考えている人たちへの警告である。

①目先のことを優先させて信仰を捨てるなら、悔い改めの機会は取り去られる。

## 結論：聖化とは

### 1. 位置的聖さ

(1) 信者は、位置的に聖くされている。

①これは、回心の瞬間に起こる。

②回心の瞬間に、信者はこの世から取り出され、神のものとなる。

③1コリ1:2

1Co 1:2 コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。

④キリストと一体化した者は、キリストの聖さに与っている。

⑤この意味での聖化は、すでに与えられている。

### 2. 実際の聖さ

(1) 信者は、日々聖化の過程を歩んでいる。

①この聖化は、現在進行形である。

②1テサ4:3~6a

1Th 4:3 神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、

1Th 4:4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、

1Th 4:5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、

1Th 4:6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。

③この聖化は、神的受動態である。

\*「聖くしていただきなさい」

### 3. 完成した聖さ

(1) 信者は、聖化の過程の完成を見るようになる（栄化）。

- ①これは、位置的聖さと実際の聖さが一致した状態である。
- ②復活の体を与えられる。
- ③あらゆる罪から解放され、罪を犯さなくなる。

### 4. 「聖められることを追い求めなさい」（14節）

(1) 私たちが追い求めるべきは、上記2の「实际的聖さ」である。

- ①1の「位置的聖さ」は、信じたときにすでに与えられている。
- ②3の「完成した聖さ」は、主と顔と顔を合わせてお会いするときに与えられる。
- ③追い求めるということは、私たちの側の努力と協力が必要だということである。
- ④「实际的聖さ」は、生涯をかけて追い求めるべきものである。
- ⑤その生き方を通して、信仰が揺らいでいる人たちを励ますことができる。

「シナイ山と天にあるシオンの山」

ヘブル 12 : 18~29

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①学んだことの適用 (10 : 19~13 : 25)
- ②この手紙の読者は、まだ背教はしていないが、その可能性を考えている。
- ③今必要なのは、信仰による忍耐である。
- ④11章では、信仰による忍耐を発揮した信仰の英雄たちがリストアップされた。
- ⑤12章では、信仰者の訓練について語られる。

(2) アウトライン

- ①地上のシナイ山 (18~21節)
- ②天にあるシオンの山 (22~24節)
- ③背教に対する警告 (挿入句) (25~29節)

結論 : 信者が向かう最終ゴール

シナイ山と天にあるシオンの山の対比について学ぶ。

I. 地上のシナイ山 (18~21節)

1. 18~19節

Heb 12:18 あなたがたは、手でさわれる山、燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、

Heb 12:19 ラッパの響き、ことばのとどろきに近づいているではありません。このとどろきは、これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったものです。

(1) 背教の可能性を考えている者は、シナイ山での光景を思い出すべきである。

- ①シナイ契約の場面
- ②モーセの律法が与えられた場面
- ③背教者とは、そこに戻って行く人である。

(2) 出 19 : 12~13

Exo 19:12 あなたは民のために、周囲に境を設けて言え。／山に登ったり、その境界に触れたりしないように注意しなさい。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。

Exo 19:13 それに手を触れてはならない。触れる者は必ず石で打ち殺されるか、刺し殺される。獣でも、人でも、生かしておいてはならない。／しかし雄羊の角が長く鳴り響くとき、彼らは

山に登って来なければならない。」

(3) 出 19 : 18~19

Exo 19:18 シナイ山は全山が煙っていた。それは【主】が火の中であって、山の上に降りて来られたからである。その煙は、かまどの煙のように立ち上り、全山が激しく震えた。

Exo 19:19 角笛の音が、いよいよ高くなった。モーセは語り、神は声を出して、彼に答えられた。

(4) 律法の付与に伴う光景は、実に恐ろしいものであった。

①「手でさわれる山」

\*地上に存在する現実の山。シナイ山

②「燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、ラッパの響き、ことばのとどろき」

\*すべてシャカイナグローリーに関係した現象である。

③「これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったもの」

\*罪人にとっては恐ろしい現象である。

(5) ユダヤ教に回帰するのは、その恐ろしい光景に回帰することである。

①イエスをメシアと信じた者が目指すゴールは、そこではない。

2. 20~21 節

Heb 12:20 彼らは、「たとい、獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」というその命令に耐えることができなかったのです。

Heb 12:21 また、その光景があまり恐ろしかったので、モーセは、「私は恐れて、震える」と言いました。

(1) 「たとい、獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」

①イスラエルの民は、この命令に耐えることができなかった。

②「神様の命令におびえ、あとずさりしました」(リビングバイブル)

③理解力のない獣(迷い込んだ獣)でも、山に触れるなら殺される。

④ましてや、神の警告を理解した人間の場合は、必ず殺される。

(2) 「モーセは、『私は恐れて、震える』と言いました」

① 申 9 : 19

Deu 9:19 【主】が怒ってあなたがたを根絶やしにしようとされた激しい憤りを私が恐れたからだだった。そのときも、【主】は私の願いを聞き入れられた。

②これは、モーセが山から下りる場面である。

- (3) 以上の現象はすべて、モーセの律法の役割を象徴するものである。
- ①モーセの律法は、神の義の基準と要求を啓示するものである。
  - ②モーセの律法は、救いに至る知識ではなく、罪の認識を与えるものである。
  - ③モーセの律法は、神と罪人の距離がどれほどのものであるかを示すものである。

## II. 天にあるシオンの山 (22～24 節)

### 1. 22～24 節

Heb 12:22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。

Heb 12:23 また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、

Heb 12:24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。

- (1) 信者は、地上のシナイ山ではなく、天にあるシオンの山に近づいている。
  - ①恐れではなく、告白、賛美、祈りをもって神に近づく。
  - ②年に一度ではなく、必要な時はいつでも至聖所に入ることができる。
  - ③私たちは、招かれ、常に歓迎されている。
  - ④神は、「近づくな」とは言わないで、「近づきなさい」と言われる。
  
- (2) 「シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム」は、同じ場所である。
  - ①律法には、地上のエルサレムがある。
  - ②信仰(恵み)には、天のエルサレムがある。
  - ③その都を設計されたのは、神である。
  - ④そこは、贖われた者が住む場所である。
  
- (3) 天のエルサレムの住民が列挙される(すべてではない。聖霊が記されていない)。
  - ①「無数の御使いたちの大祝会」
    - \* 「無数の天使たちの祝いの集まり」(新共同訳)
  - ②「天に登録されている長子たちの教会」
    - \* これは、キリストの花嫁なる教会の一部である。
    - \* ペンテコステの日以降に死んだ聖徒たちの群れである。
    - \* 霊の状態で神をたたえながら、栄光の体を与えられるのを待っている。
    - \* 「長子たち」は、紀元1世紀のユダヤ人信者を指している可能性もある。

③「万民の審判者である神」

- \*父なる神を指している。父なる神は、万民の審判者である。
- \*神はもはや暗雲、暗やみ、あらしの中に隠れてはおられない。
- \*贖われた聖徒たちは、天において神を見ることができる。

④「全うされた義人たちの霊」

- \*「完全なものとされた正しい人たちの霊」(新共同訳)
- \*旧約時代の聖徒たちである。
- \*彼らもまた信仰によって救われた。
- \*キリストの贖罪の御業のゆえに、今や彼らは完全なものとされた。
- \*旧約時代の聖徒たちと教会時代の聖徒たちが、明確に区別されている。

⑤「新しい契約の仲介者イエス」

- \*御子イエスもそこにおられる。
- \*イエスは旧約の仲介者であるモーセよりもすぐれた方である。
- \*モーセは、神のことばを民に届けただけである。
- \*イエスは、ご自身の血を流すことによって新しい契約の仲介者となられた。

⑥「アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血」

- \*キリストの血とアベルの血が対比されている。
- \*アベルは、いけにえの血を捧げた最初の人物である。
- \*アベルの血(いけにえの血)は、罪を一時的に覆った。
- \*キリストの血は、罪を永遠に取り去った。
- \*キリストの血は文字通り天のエルサレムにある。
  - ・比喩的解釈の余地はない。
  - ・列挙されている内容は、すべて字義通りである。

### III. 背教に対する警告(25~29節)

#### 1. 25節

Heb 12:25 語っておられる方を拒まないように注意しなさい。なぜなら、地上においても、警告を与えた方を拒んだ彼らが処罰を免れることができなかつたとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありませんか。

(1) シナイ山における神の啓示とキリストを通した神の啓示の対比

- ①キリストを信じる者には、比類なき特権と栄光が与えられている。
- ②招いておられる神を拒否するなら、その人は滅びるしかない。
- ③シナイ山で神の警告を伝えた仲介者を拒んだ者は、処罰を免れなかつた。
- ④ましてや、天から恵みを語っておられる方を拒否するなら、処罰を受けるのは

当然である。

⑤これは、カル・バホメル(大から小へ)の議論である。

⑥この処罰は、救いを失うことではなく、肉体の死である。

## 2. 26節

Heb 12:26 **あのときは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」**

(1) シナイ山では、神の声が地震を呼び起こした。

①この地震は、将来起こることの象徴である。

②今度は、神の声は天と地を揺り動かす(地震と天震)。

(2) ハガ2:6からの引用

Hag 2:6 **まことに、万軍の【主】はこう仰せられる。しばらくして、もう一度、わたしは天と地と、海と陸とを揺り動かす。**

①これは、再臨の前に起こることの預言である。

②これは、大患難時代の裁きに含まれている。

③これは、千年王国の設立の前に起こる。

④私たちは、2つの「揺り動かし」の間に生きているのである。

(3) 著者は、ハガ2:6からその時代への適用を語っている。

①「このたびは」は、ギリシア語で「nun」(英語でnow)である。

②著者は、この「揺り動かし」はすでに始まっていると語る。

③この書簡は、紀元64~66年ごろに書かれた。

④ローマに対するユダヤ人の反乱は、紀元66年に起こった。

\*その前に、小規模な反乱が各地で起こっていた。

⑤エルサレムは、紀元70年に崩壊した。

\*その時、ユダヤ教の中心である神殿と祭儀体系は崩壊した。

\*しかし、新しい契約と神の恵みは、残った。

## 3. 27節

Heb 12:27 **この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。**

(1) 最後の「揺り動かし」によって、揺り動かされないものが残る。

①地が揺り動かされるのは、それが一時的なものであるからだ。

②千年王国とそれに続く永遠の御国は、揺り動かされることがない。

3. 28～29節

Heb 12:28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。

Heb 12:29 私たちの神は焼き尽くす火です。

(1) ユダヤ教に固執する者は、揺り動かされるものにしがみついているのである。

①しかし、私たちはそうではない。

(2) 「私たちは揺り動かされない御国を受けている」

①黙 20～22章は、千年王国に続いて永遠の秩序が来ることを預言している。

②それに対する正当な応答は、感謝である。

③慎みと恐れをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることである。

(3) 「私たちの神は焼き尽くす火です」

①福音から離れてユダヤ教に回帰する者は、神を恐れることを学ぶべきである。

②再び言うが、これは救いを失うことでなく、肉体の死を招くことである。

結論：信者が向かう最終ゴール

1. 私たちは、天のエルサレムに向かっている。

(1) 「シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム」は、すべて同じ場所である。

(2) 天にある都は、贖われた者たちの住まいとして用意されたものである。

2. イエスは、この都について語っておられる。

Joh 14:2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。

Joh 14:3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

(1) これは、復活の預言ではない。

(2) これは、信者の死への言及ではない。

(3) これは、携挙に関する預言である。

3. パウロも、この都について語っている。

Gal 4:26 しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。

(1) この都は、奴隷ではなく、自由である。

4. アブラハムも、この都を待ち望んでいた。

Heb 11:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

5. 黙 21 : 1～22 : 5 も、この都について語っている。

6. この都に住む者たちの名が6つ上げられていた。

- (1) 「無数の御使いたちの大祝会」
- (2) 「天に登録されている長子たちの教会」
- (3) 「万民の審判者である神」
- (4) 「全うされた義人たちの霊」
- (5) 「新しい契約の仲介者イエス」
- (6) 「アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血」

7. 私たちも、その中に含まれる。

- (1) 上記 (2) の「天に登録されている長子たちの教会」の完成形に含まれる。

「善行の勧めと信仰上の勧め」

ヘブル 13 : 1~17

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①教理的学び
- ②学んだことの適用（10 : 19~13 : 25）
- ④この箇所は、適用の最後の部分に当たる。

2. アウトライン

(1) 善行の勧め（1~6 節）

- ①兄弟愛（1 節）
- ②旅人のもてなし（2 節）
- ③牢にいる人々の訪問（3 節 a）
- ④苦しめられている人々への憐れみ（3 節 b）
- ⑤結婚への敬意（4 節）
- ⑥満ち足りる心（5~6 節）。

(2) 信仰上の勧め（7~17 節）

- ①過去の指導者たちを思い出せ（7~8 節）
- ②異なった教えに惑わされるな（9~10 節）
- ③宿営の外に出よう（11~14 節）
- ④神に喜ばれるいけにえを捧げよ（15~16 節）
- ⑤現在の指導者たちに従え（17 節）

結論：2つの重要な勧め

- (1) 宿営の外に出よう（11~14 節）
- (2) 神に喜ばれるいけにえを捧げよ（15~16 節）

信者が歩むべき道について学ぶ。

I. 善行の勧め（1~6 節）

1. 兄弟愛（1 節）

**Heb 13:1 兄弟愛をいつも持っていなさい。**

- (1) 先ず愛が先頭に来る。

- ①「兄弟愛を続けなさい」（口語訳）
- ②信者は、互いに対して神の家族という意識を持つべきである。
- ③1ヨハ3:18

1Jn 3:18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。

- ④兄弟愛を続けることは、背教に対する最大の防御である。
- \* (ILL) 「神を恐れる人とともに歩め」

## 2. 旅人のもてなし (2節)

Heb 13:2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。

- (1) 当時は、旅人をもてなすことが信者の重要な義務であった。
  - ①これは、信者同士の間における兄弟愛の表現である。
  - ②へブル書の文脈では、特に迫害を逃れている信者が想定されている。
  - ③彼らは、食物と水、そして安全な隠場を必要としていた。
  - ④その彼らを置くことは、主人にとっては危険なことであった。
- (ILL) 「ユダヤ人をかくまった」罪で逮捕されたコリー・テン・ブーム

## (2) 「御使いたちを、それとは知らずにもてなしました」

- ①創18章のアブラハムの体験
- ②彼は、3人の旅人をもてなした。2人は天使で1人は【主】であった。
- ③天使でなくても、旅人は宿泊した家に大きな祝福をもたらす可能性がある。

## 3. 牢にいる人々の訪問 (3節 a)

Heb 13:3a 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやり、

- (1) 投獄された兄弟たちへの配慮
  - ①彼らは、キリストへの信仰のゆえに投獄されていた。
  - ②当時投獄は、罰そのものではなく、罰が決まるまでの一時的処置であった。
  - ③彼らは、衣服、食事、読み物、励ましなどを外部から与えられる必要があった。
  - ④牢を訪問する者は、共犯者と見なされる危険を冒すことになる
  - ⑤しかし訪問者には、投獄されている者をキリストと見なす信仰があった。

## 4. 苦しめられている人々への憐れみ (3節 b)

Heb 13:3b また、自分も肉体を持っているのですから、苦しめられている人々を思いやりなさい。

(1) 「苦しめられている人々」

- ①信仰のゆえに迫害に会っている信者たちのことである。
- ②彼らに対する思いやりを常に持つべきである。

(2) 「自分も肉体を持っているのですから、」

- ①あなたがたも、同じ苦しみを経験してきたのだから。
- ②まだそのような苦しみを経験がない者でも、将来苦しみに会う可能性はある。

### 5. 結婚への敬意 (4節)

Heb 13:4 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行う者とをさばかれるからです。

(1) 結婚を尊びなさい。

- ①結婚は、人類の墮落の前に神が造られた制度である。
- ②「寝床」は性的交わりの婉曲語である。

(2) 著者は、ギリシア・ローマ的習慣や価値観を排除し、神の価値観を伝えている。

①ギリシア・ローマ的習慣

- \*男性の性的不道徳が蔓延していた。
- \*売春、ホモセクシャル、幼児愛など
- \*結婚までの時期における女奴隷との性行は、ギリシア文化では一般的。

②著者は、神の価値観を教えている。

- \*「神は不品行な者と姦淫を行う者とをさばかれるからです」
- \*裁きは、地上的なものであり、死後のものでもある。
- \*信仰による赦しを得ていなければ、恐ろしい結果が待っている。

### 6. 満ち足りる心 (5~6節)。

(1) 5節

Heb 13:5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

- ①裕福な者は、財産を誇る。
- ②ユダヤ教に固執する者たちは、神殿、祭司、いけにえなどを誇る。
- ③真の信者は、いま持っているもので満足する。
- ④真の信者は、神との平和を持っている。
- ⑤申 31:6

Deu 31:6 強くあれ。雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない。おののいてはならない。あな

たの神、【主】ご自身が、あなたとともに進まれるからだ。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。

(2) 6節

Heb 13:6 **そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。／「主は私の助け手です。私は恐れ  
ません。／人間が、私に対して何ができましょう。」**

- ①これは、詩 118 : 6 からの引用である。
- ②これは、真の信者の告白である。

## II. 信仰上の勧め (7～17節)

### 1. 過去の指導者たちを思い出せ (7～8節)

(1) 過去の指導者たちが良い手本となる。

Heb 13:7 **神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの  
生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。**

- ①彼らは、神のみことばを語った。
- ②彼らは、ユダヤ教に戻ることなく、最後まで信仰を貫いた。
- ③恐らく、殉教の死を遂げた者たちもいたことであろう。

(2) 彼らは死んだが、彼らが伝えたイエス・キリストは、いつもともにいる (8節)。

Heb 13:8 **イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。**

- ①「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です」  
(新共同訳)
- ②読者が信じたイエス・キリストは、永遠に変わることがない。

### 2. 異なった教えに惑わされるな (9～10節)

(1) 9節

Heb 13:9 **さまざまの異なった教えによって迷わされてはなりません。食物によってではなく、  
恵みによって心を強めるのは良いことです。食物に気を取られた者は益を得ませんでした。**

- ①これは、律法主義という誤った教えに対する警告である。
- ②ユダヤ主義者たちは、外面にこだわった。
  - \*いけにえ、清めの儀式、食物規定など
- ③神が喜ばれる聖さは、外面を整えることによって得られるものではない。
- ④それは、恵みによって内面に生まれ、成長するものである。
- ⑤食物規定にこだわった者たちは、神の恵みを体験することがなかった。

(2) 10 節

Heb 13:10 私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕える者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。

- ①「私たちには一つの祭壇があります」
- ②これは、外面を誇るユダヤ教への反論である。
- ③私たちが持っている祭壇とは、外面的なものではなく、キリストご自身である。  
\*キリストから、すべての祝福が流れ出てくる。  
\*私たちは、信仰によってその祝福を味わうのである。
- ④レビ的祭儀と関係している者たちは、この祝福に与る権利がない。  
\*彼らは、行いによる原理に固執し、恵みによる原理を拒否している。

3. 宿営の外に出よう (11～14 節)

(1) 11～12 節

Heb 13:11 動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。

Heb 13:12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

①レビ4:11～12

Lev 4:11 ただし、その雄牛の皮と、その肉の全部、さらにその頭と足、それにその内臓と汚物、

Lev 4:12 その雄牛の全部を、宿営の外きよい所、すなわち灰捨て場に運び出し、たきぎの火で焼くこと。これは灰捨て場で焼かなければならない。

- ②レビ記のいけにえは、キリストの型である。
- ③いけにえの血は、聖所の中に運ばれるが、からだは宿営の外で焼かれる。
- ④キリストの血は、信じる者を聖なる者とした。
- ⑤キリスト自身は、門の外で苦しみを受けた。

(2) 13～14 節

Heb 13:13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。

Heb 13:14 私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。

- ①適用：それゆえ、読者たちもユダヤ教という宿営を出るべきである。
- ②キリストを信じるとは、キリストのはずかしめを自らのものとする事である。

- ③ユダヤ教に固執する者たちは、地上のエルサレムを重視した。
- ④真の信仰者たちは、天のエルサレムを求めるべきである。

#### 4. 神に喜ばれるいけにえを捧げよ (15~16節)

Heb 13:15 ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。

Heb 13:16 善を行うことと、持ち物を人に分けることとを怠ってははいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。

(1) 新約聖書では、全ての信者は祭司である。

①1 ペテ 2:5

1Pe 2:5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

②1 ペテ 2:9

1Pe 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

③信者は、祭司としていけにえを捧げる。

#### 5. 現在の指導者たちに従え (17節)

Heb 13:17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。

(1) 過去の指導者たち(7節)を思い出すことと現在の指導者への従順

- ①これは、地域教会の長老たちであろう。彼らには権威が付与されている。
- ②信者は、彼らに従うべきである。
- ③彼らは、大牧者の下にあって、信者のたましいの見張りをしている。
- ④彼らは、神の前で説明責任を負わされている。
- ⑤信徒は、指導者が神の命令に忠実に働いているかどうか吟味する必要がある。

(2) 彼らの奉仕には、2つの異なった結果がともなう。

- ①喜んで奉仕をする。信徒が霊的に成長している。
- ②嘆いて奉仕をする。信徒が霊的に成長しない。

結論：2つの重要な勧め

1. 宿営の外に出よう (11~14節)

(1) レビ的いけにえ vs. キリスト

①からだは宿営の外で焼かれた vs. キリストは町の外で十字架にかかられた。

(2) 読者への適用

①それゆえ、ユダヤ教の宿営から出て、キリストとともに苦しむべきである。

(3) 現代の信者への適用

①世俗的社会とその価値観からの分離

②形式的キリスト教会と非聖書の教えからの分離

\*業による救い

\*儀式や礼典による救い

\*形式や見かけを誇り、キリストがそこにいない教会

③キリストがそこにいないなら、キリストがおられる所に行くべきである。

2. 神に喜ばれるいけにえを捧げよ (15~16節)

(1) 自分自身をいけにえとして捧げる。

①ロマ 12:1

Rom 12:1 **そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。**

(2) 賛美のいけにえを捧げる。

Heb 13:15 **ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。**

①キリストを通して、父なる神に捧げる。

\*すべての賛美は、キリストを通して父なる神に届く。

\*それゆえ、すべての誤りは正される。

②賛美のいけにえとは、御名をたたえるくちびるの果実である。

\*贖われた聖徒たちのくちびるから出る賛美だけが、神に受け入れられる。

(3) 持ち物をいけにえとして捧げる。

Heb 13:16 **善を行うことと、持ち物を人に分けることを怠ってはいけません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。**

①自分のために蓄えるのとは正反対の行為である。

「祝祷」

ヘブル 13 : 18~25

1. はじめに

(1) この手紙は、ユダヤ教への回帰を考えていた第2世代のメシアニック・ジューたちを励ますために書かれた。

- ①教理的学び
- ②学んだことの適用
- ④この箇所は、締めくくりの部分に当たる。

2. アウトライン

- (1) 祈りの要請 (18~19 節)
- (2) 祝祷 (20~21 節)
- (3) 終わりの挨拶 (22~25 節)

結論 :

- (1) この手紙が書かれた目的は達成されたのか。
- (2) この手紙の今日的意義は何か。

締めくくりの部分について学ぶ。

I. 祈りの要請 (18~19 節)

1. 18 節

**Heb 13:18 私たちのために祈ってください。私たちは、正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動しようと呼んでいるからです。**

- (1) これは、個人的な祈りの要請である。
  - ①「私たちのために」とある。
  - ②パウロ書簡では、締めくくりの部分に同労者を含むことがよくある。
- (2) この要請の内容から、著者とその協力者たちが試練に会っていたことが分かる。
  - ①著者は獄中であつた可能性がある。
  - ②少なくとも、彼の信頼性に疑問符が付いていたことは確かである。
  - ③著者とその同労者たちを支えていた確信とは、「正しい良心」である。
    - \*神の前における良心
    - \*その確信こそが試練を乗り越える最終的な力である。

④良心への言及もまた、パウロ書簡の特徴である。

## 2. 19節

Heb 13:19 **また、もっと祈ってくださるよう特にお願いします。それだけ、私があなたがたのところに早く帰れるようになるからです。**

(1) ここで初めて、「私」のための祈りの要請になっている。

①著者は、この手紙の受取人たちとともにいたことがある。

②今は、なんらかの理由で彼らと離れている。

(2) 「あなたがたのところに早く帰れるようになるからです」

①著者は投獄されていた可能性がある。

②あるいは、病気になっていた可能性もある。

③あるいは、旅をすることを妨害するなんらかの理由があったのかもしれない。

## II. 祝祷 (20～21節)

### 1. 20～21節

Heb 13:20 **永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き出された平和の神が、**

Heb 13:21 **イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行い、あなたがたがみこころを行うことができるために、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいますように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。**

(1) 聖書の中で、最も美しい祝祷のひとつである。

①民6:24～26

Num 6:24 **『【主】があなたを祝福し、／あなたを守られますように。**

Num 6:25 **【主】が御顔をあなたに照らし、／あなたを恵まれますように。**

Num 6:26 **【主】が御顔をあなたに向け、／あなたに平安を与えられますように。』**

②2コリ13:13

2Co 13:13 **主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。**

(2) この祝祷は、「**平和の神**」への祈りである。

①旧約時代の聖徒たちは、完全な良心を持つことができなかった。

Heb 9:9 **この幕屋はその当時のための比喩です。それに従って、ささげ物といけにえとがささ**

げられますが、それらは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。

②新約時代の聖徒たちは、「神との平和」と「神の平安」を持っている。

Rom 5:1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

Php 4:7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

③私たちに対して神は、「平和の神」となられた。

(3) この祝福は、キリストの御業によって成就したものである。

①神は、主イエスを死者の中から復活させた。

②復活は、御子の死が、罪の問題を完璧に解決したというしるしである。

(4) 主イエスは、「永遠の契約の血による羊の大牧者」である。

①主イエスは、血を流すことによって永遠の契約を結ばれた。

②新しい契約は、永遠の契約である。

③その結果、主イエスは羊の大牧者となられた。

④主イエスは、良い牧者である。

Psa 23:1 **【主】**は私の羊飼いです。／私は、乏しいことはありません。

Joh 10:11 わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。

⑤大牧者は、再び戻って来られる。

1Pe 5:4 そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けけるのです。

(5) 「あなたがたがみこころを行うことができるために、」

\*ここには、神の導きと人間の努力の不思議な調和がある。

①神は、御前でみこころにかなうことを私たちのうちに行われる。

②神は、そのことをイエス・キリストを通して行われる。

③そして私たちは、みこころを行うようになる。

### III. 終わりの挨拶 (22~25 節)

#### 1. 22 節

Heb 13:22 兄弟たち。このような勧めのことばを受けてください。私はただ手短かに書きました。

(1) 「このような勧めのことばを受けてください」

- ①勧めとは、ユダヤ教(儀式的宗教)を離れ、心からキリストに従うこと。
- ②著者は、読者に決断を迫っている。

(2)「私はただ手短に書きました」

- ①13章もある書簡を、「手短」と呼べるのか。
- ②書きたいことは山ほどあるという点からは、ほんの一部を書いたと言える。

2. 23節

Heb 13:23 **私たちの兄弟テモテが釈放されたことをお知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼と一しょにあなたがたに会えるでしょう。**

- (1) テモテへの言及があるので、パウロ著者説の可能性が高い。

- ①しかし、著者が誰なのかは、確実には分からない。

3. 24節

Heb 13:24 **すべてのあなたがたの指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく言ってください。イタリアから来た人たちが、あなたがたによろしくとっています。**

- (1) この挨拶も、パウロ書簡に特徴的なものである。

- ①指導者たち
- ②すべての聖徒たち

(2)「イタリアから来た人たち」

- ①原文では、「イタリアの人たち」である。

- ②2つの可能性

\*著者は、イタリアでこの手紙を書いた。

\*著者は、イタリアにいるメシアニック・ジューに向けてこの手紙を書いた。

4. 25節

Heb 13:25 **恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。**

- (1) 新しい契約のキーワードは、恵みである。

- ①私たちは、イエス・キリストにあって、値なしに永遠のいのちを受けた。

結論：

- 1. この手紙が書かれた目的は達成されたのか。

- (1) 3人の証人による証言がある。

①ヨセフス

\*紀元1世紀のユダヤ人の歴史家

\*未信者

②ヘギシパス

\*紀元2世紀のメシアニック・ジュー

③エウセビオス

\*紀元4世紀の教会史家

(2) この手紙を読んだメシアニック・ジューたちは、その勸告に従った。

①彼らは、ユダヤ教と完全に決別した。

(3) 手紙の執筆から2年も経たないうちに、第1次ユダヤ戦争勃発(紀元66年)。

①メシアニック・ジューは全員、ヨルダン川の東にあるペラという町に非難した。

\*何万人という数のメシアニック・ジューたちである。

③ペラは、ガリラヤ湖の南に位置する町で、戦火が及ばない場所にあった。

\*デカポリスのひとつで、ギリシア風の町であった。

④メシアニック・ジューたちはそこで戦争が終わるのを待った。

(4) 4年後の紀元70年に、エルサレムとそこにある神殿は崩壊した。

①主イエスの預言が成就した。

②この戦いで、約100万人のユダヤ人たちが死んだ。

(5) 第一次ユダヤ戦争で死んだメシアニック・ジューは、ひとりもいなかった。

①ヘブル人への手紙は、その目的を達成した。

2. この手紙の今日的意義とは何か。

(1) 今日、ユダヤ教は世界の主要な宗教ではない。

①当時は、ユダヤ教が主要な宗教のひとつであった。

②口伝律法を中心とした宗教であった。

\*バビロン捕囚からの帰還以降に口伝律法が発展した。

\*紀元2~3世紀にかけて、ラビ・ユダ・ハナシが成文化した。

(2) しかし、律法主義の精神は、今も健在である。

①C. I. Scofield 博士は、これを「教会のユダヤ主義化」と呼んでいる。

\*これは、教会の使命を妨害する最大の要因である。

\*「教会のパリサイ主義化」と呼んでもよい。

②キリスト教界には、律法主義的習慣や考え方が蔓延している。

③そのため、本来クリスチャンが目指すべきゴールが曖昧になっている。

(3) 何が問題か。

①世俗的な価値観を重視する。

\*富の追求

\*儀式や礼典の強調

\*建物としての教会建設

②信者はすべて祭司であることを教えない。

\*信者は、自分でみことばを読み、それを解釈する権利と責務を有する。

\*信者は、いつでもどこでも、イエス・キリストを通して神の臨在の前に出ることができる。

\*信者は、神にいけにえを捧げるという奉仕に召されている。

・自分自身を捧げる。

・くちびるの果実を捧げる。

・所有している物を捧げる。

③聖職者と信徒を区別する。

\*これは、新約時代の教会に旧約時代のレビ的規定を適用することである。

\*神は、至聖所の垂れ幕を自らの聖い手で二つに引き裂かれた。

\*神は、「わたしから離れてここにいなさい。私に近づいてはならない」とは言われない。

④ユダヤ主義化したキリスト教からの脱却

\*私たちには、よりすぐれた契約がある。

\*私たちには、よりすぐれた仲介者がおられる。

\*私たちには、よりすぐれた希望がある。

\*私たちには、よりすぐれた約束がある。

\*私たちには、よりすぐれた故郷がある。

\*私たちには、よりすぐれた祭司がおられる。